

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 金曜日・Ⅲ校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史 (日本の民俗文化) Society and History (Japanese Folk Culture)		
対象年次 全学	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	科目分類 人文・社会科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 福島邦夫 /Eメールアドレス:kunio-fk@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 414 /TEL: 819-2735 /オフィスアワー:水曜日Ⅲ校時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標 (500 文字) 授業のねらい: 高度成長を経て日本は今高度情報化社会のまっただ中にある。その中で我々も生活も大きく変わり衣食住に始まり、家族関係などすべてに関して従来の規範は崩壊している。本講義では一世代、あるいは二世代前の人々が営んできた日本人の生活をあきらかにすることをねらいとする。 そうした中で日本の民俗文化を見直し、その中から今後の社会の将来像を描こうとするものである。 授業方法: (学習指導法) 独自の教材をプリントしたものを用い、視聴覚教材なども併用しながら、具体的であり、かつ問題発見につながるような方法で授業をおこなう。毎回問題を提出し、それについての小レポートを課す。 授業到達目標:最終の到達目標は今後の我々の進むべき道を考えようとするものである。現代社会に対して批判的な目をもち考えることが可能になることが本講義の目標である			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字) 授業内容(概要) 日本の民俗文化とは衣食住をはじめ、家族、近隣社会、交通、交易といった、有形文化から、我々の話し言葉、伝説、歌謡などの口頭伝承、タブーや民俗信仰といった心意伝承にまで及ぶ広いものである。その各項目について今までの民俗学の成果によりながら講義を行う。 第1回初めに、今なぜ民俗文化を考えるのか 第2回民俗文化とは何か？ 第3回民俗文化の項目概説Ⅰ 第4回民俗文化の項目概説Ⅱ 第5回民俗文化の項目概説Ⅲ 第6回食文化についてⅠ 第7回食文化についてⅡ 第8回住文化についてⅠ 第9回住文化についてⅡ 第10回衣文化についてⅠ 第11回衣文化についてⅡ 第12回家族について 第13回村落共同体について 第14回 神話・伝説・昔話・ 第15回 民俗宗教について、最後に各講義で寄せられた質問に答える			
キーワード	民俗文化、柳田国男、折口信夫		
教科書・教材・参考書	プリントを配布する。 参考書 谷口他編『民俗学講義—生活文化へのアプローチ』八千代出版 2006年		
成績評価の方法・基準等	小レポート30% 期末試験70%		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ /学習・教育目標	現代社会を考えるための日本の過去を知ること		
備考(準備学習等)	日本の古典文学に親しんでおくこと。		